

法人	社会福祉法人光朔会 オリμπア	報告者	常務理事 山口 幸
基本方針			
イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会を実現する。			
運営方針			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しいケアへの転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
概要			
<p>法人設立より26年目となる2020年度は、社会福祉法人光朔会オリμπアにとって、新たな一步を踏み出す年である。少子高齢化の進行や、政治・経済状況の変化など、福祉を取り巻く環境が日々様変わりする中で、その時々ニーズに応じた事業展開・サービス提供をすることが求められている。そのためにも、柔軟な発想力と大胆な行動力を兼ね備え、オリμπアの理念の実践に貢献することができる人材を安定的に確保し、その育成に注力していきたい。また、我々の取り組みを多くの方に伝えるため、インターネットや新聞・雑誌等のメディアを活用したPR活動も積極的に行う。さらに、海外に目を向ければ、アジアの国々も急激な少子高齢化の道を歩み始めており、これまでの日本の経験やオリμπアの取り組みを伝えることにより、オリμπアの目指す「誰もがその人らしく輝いて暮らすことのできる社会づくり」に貢献をしていく。このように目まぐるしい変化を続ける社会状況に対応する為にも、常に新しいアイデアをアクションに移していくことで、新たな福祉のムーブメントを起こしていきたい。平坦な道のりではないが、常に初心を忘れることなく、新しいことにチャレンジし続けることができるオリμπアを目指す、新たな1年としたい。</p>			
事業計画			
<p>1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] : 高齢者事業部門・保育事業部門・社会事業部門・法人本部の働きを一層充実させ、オリμπアの目指す「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させる。</p> <p>2. 新しいケアへの転換 [小規模] : 従来の大規模・画一的なケアではなく、入居者・利用者・園児ひとりひとりがその人らしく輝くことができるように、家庭的な環境の中で小規模・個別的な新しいケアを実践する。</p> <p>3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] : オリμπア福祉塾講座、高齢者と介護者の教室、認知症高齢者や発達障害児の理解を深めるための講演会を開催、あるいは講師として参加することにより、地域福祉の啓発に貢献する。</p> <p>4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] : 日本聖公会・YMCA・各大学や大学院・ロータリークラブ行政・社会福祉協議会・医師会・自治会などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげる。</p> <p>5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] : 各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深める。</p> <p>6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] : 内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティアの資質の向上に努める。また、実習生を積極的に受け入れることにより、次世代の福祉の担い手を育成する。</p> <p>7. 海外との交流 [国際活動] : リンネ大学(スウェーデン)との協働により、海外研修を実施する。また、香港・台湾・ベトナム・シンガポールなどのアジアの国々との連携を密にし、世界の福祉の情勢の分析および情報発信を行う。</p> <p>8. 健全な財政運営 [健全財政] : 収入の増加、支出の見直しを実施し、健全な財政運営に努める。</p>			

施設	特別養護老人ホームオリンピア	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 人材確保及び育成 4. 地域ニーズに応えられる施設を目指す		
概要	<p>施設で求められる介護サービスの提供にあたり、介護人材が大きく不足している状況があります。介護業界全般で実質求人倍率が4倍を超えている現実があり、より良い介護人材を採用する事が最も重要な課題となっている。安定した事業所運営を行うには、介護職員の確保していく事が必要であり、介護職員に必要な資格取得の研修を積極的に進めていく。経済連携協定(EPA)に基づく専門的介護人材の活用を着実に進めていくとともに外国人介護人材の受け入れの在り方について総合的かつ具体的な検討を進める。魅力のある職場環境作りを行う事で他法人との差別化を図り、人材の確保を目指す。施設の介護力や利用者が楽しく過ごすことができる環境を整えていく事で、他施設との差別化を図り利用者の確保に努め安定した財政基盤を構築する。</p>		
事業計画	<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供: 利用者の「その人らしい生活」を大切にして「有する能力」に応じた生活を送ることができるよう支援を行っていく。私たちスタッフは利用者の「尊厳」を大切にして行くために、お一人おひとりの表情や態度等に目を向けていき、スタッフが接する中で「その人なり」を大切にします。利用者個々のニーズに柔軟に対応できるように、他職種が連携できる体制を整えていく事で、声に出ない隠れたニーズにも対応しながら、利用者の満足度を高めていきます。また、利用者の有する能力を最大限に活かす事ができるように「自己選択」を大切にし自主性が発揮できるような取り組みを行います。</p> <p>2. 財政基盤の確立: 利用者の満足度を高め、質の高いサービスを提供するためには、安定した財政基盤が必要です。その為には、目標の利用率を達成することが経営基盤の強化、地域資源の活用に繋がり、喜んで利用して頂いている事業所としての評価にもなります。拠点には通所介護、居宅介護支援、あんしんすこやかセンター、長期入所、短期入所とがありそれぞれの事業所が持てる力を最大限に発揮し、各事業所が立てた年度目標を達成することで安定した財政基盤の確立を図ります。予算執行に関しては適切な予算管理に基づき適正な人員配置や費用支出を資金計画に沿って効率的に行います。但し、不必要な支出や業務の省力化を図って行き、無駄や重複事項を削減し生産性を高めます。また、情報公開等を積極的にを行い事業運営の透明性の確保に努めていきます。</p> <p>3. 人材の確保: 人材を確保するためには「魅力のある職場作り」を進めて行くことが大切です。常に質の高いサービス提供をさせて頂くために、利用者数に応じて人材を確保していく必要がある。全てのスタッフが目標を持ち実践していく事で個々のスキルアップに努める。そのためには福祉職に必要な資格取得についての支援を行いキャリアアップ制度等を活用して行く事でスタッフの意欲向上をはかり、魅力のある職場作りを目指します。</p> <p>4. 地域のニーズに応えられる施設作りを目指す: あんしんすこやかセンターや居宅又は通所介護等の居宅系サービスがあり、地域の中で何に困っているかなど、地域の方々の潜在的なニーズを掘り起こし、介護保険制度の狭間にある方達への支援、地域ニーズにきめ細やかに対応を行っていきたい。</p> <p>各種団体が主催する会議や研修課は基より、地域の行事等にも積極的に参加する事で、地域との係わりを深く持ち、開かれた施設作りを目指すことで社会福祉法人として社会貢献に努める。</p>		

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	谷口 裕亮
事業目標	1. 理念に基づく、「その人らしい暮らし」の実現を目指す 2. 財政基盤の確立 3. 法人と地域の懸け橋を担う新たなチャレンジをする 4. 新しいケアへの転換				
事業計画	<p>1. 理念に基づく、「その人らしい暮らし」の実現を目指す：誰しものが明日への夢や希望に満ちた生活を送って頂けるよう、まず、お一人お一人の「その人らしい暮らし」の実現を目指す。ノーマライゼーションの実践、法人の26年の歩みを糧にした新たな一步にチャレンジをし、社会資源の一端を担いつつ、地域と共に歩める場所を実現する。</p> <p>2. 財政基盤の確立：法人の歴史、地域・所関係機関との繋がりを見直し、人材の発掘とその育成に積極的に取り組みることにより、年間稼働率を98.0%以上での推移を目指す。昨年より増床したショートステイのPR活動を積極的に行い、周辺地域の高齢者を支援することにより、更なる財政の安定を目指し、健全な運営に繋げる。</p> <p>3. 法人と地域の懸け橋を担う新たなチャレンジをする：併設する居宅介護支援事業所とあんしんすこやかセンターと協力し、お困りの高齢者の支援、入退所をスムーズに行う。繋がりのある各団体・ボランティアとの交流の機会を増やし、駅が近く街の中にある立地条件を生かして、いつまでも人との交流を楽しめる場を創造していく。</p> <p>4. 新しいケアへの転換：従来型特養として入居待ちは二桁以上あるが、第三者評価の日本一であるユニットケアの部門を参考にし、様々なチャレンジを柔軟に取り入れ、新たな福祉のムーブメントを起こしていきたい。</p>				

社会福祉法人光朔会

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	金谷 佐織
事業目標	1. 年間利用者数7,740人(30人/日)を目指す 2. 質の高いサービス提供に努める 3. 人材の確保・育成				
事業計画	<p>1. 年間利用者数7,740人(30人/日)を目指す：毎月予算計画に沿って達成出来るように質の高い介護サービスを提供する。利用者様の満足度を高める為、遠足などのイベントに力を入れ、広報活動を強め、体験利用者を増やし、新規の利用者を積極的に受け入れていく。</p> <p>2. 質の高いサービス提供に努める：きめ細やかなサービスを展開し、業務内容およびリスクマネジメントの情報共有を徹底する。オリンピアの理念に基づき、職員の意識向上に努める。勉強会や研修など積極的に行い他機関との交流を通して得た情報を活かし利用者様、家族様にのニーズに沿ったケアを実施する。また、営業活動に力を入れていき新規利用者への獲得に動く。</p> <p>3. 人材の育成：オリンピアの目指す新しいケアのあり方に従来のマニュアル的対応は通用しない。自ら考え、判断し、適切な行動を取ることが出来る人材、そのスタッフを育てる人材が必要である。そこで、スタッフひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握するとともに、それぞれのステップに応じた研修を積極的に実施する。</p>				

社会福祉法人光朔会

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピア	部門	居宅支援事業所	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 質の高い居宅介護支援 3. 地域、他事業所との連携 4. 介護支援専門員の資質向上 5. 認定調査員の資質向上				
事業計画	<p>1. 財政基盤の確立:要介護者プラン件数年間1040件、要支援者件数年間150件を目標とする。新規利用者を獲得する事で収入の増加を図る。</p> <p>2. 質の高い居宅介護支援:利用者宅を訪問し、状況把握、モニタリングを行う。住み慣れた地域で在宅での生活が安全に継続できるように援助し、見守る。主任介護支援専門員による相談できる環境を確保し、介護保険外のサービスも組み入れていく。「その人らしく」暮らす事ができるよう支援する。</p> <p>3. 地域、他事業所との連携:研修などに参加し、あんしんすこやかセンターや他事業所との連携を図り、困難事例も対応できるようにする。</p> <p>4. 介護支援専門員の資質向上:研修に参加し、情報収集を行い、利用者の自立支援の観点に立った支援が行えるようにする。</p> <p>5. 認定調査員の資質向上:認定調査の研修に参加する。また、他市の調査依頼を受ける事で情報収集を行う。</p>				

社会福祉法人光朔会

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピア	部門	あんしんすこやかセンター	報告者	太田直樹
事業目標	1. 高齢者やその家族から信頼され安心して相談ができる窓口として、さらに認知・評価される。 2. 高齢者と地域(社会資源)をつなげ、安心して住むことのできる地域づくりを支援する。				
事業計画	<p>1. 圏域内各種事業所への訪問と、圏域内各地区民児協定例会の出席や地域の高齢者向け活動への支援を通して高齢者介護に関する情報提供を継続し、センターの認知度をさらに広げる。</p> <p>2. 高齢者が、住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、高齢者に関する地域の困りごと等の解決方法を関係者間で話し合い、ネットワークを広げ、地域包括ケアシステムの構築に寄与する。</p> <p>3. 認知症の人にやさしいまちづくり条例に関連して、認知症サポーター養成講座の開催や認知症サポーター店の新規開拓、声掛け訓練の実施等を通じて、認知症理解が進み、認知症支援の担い手が増えるように働きかける。</p> <p>4. 民生委員や老人会、婦人会など、高齢者に関わる人的資源との関係や、ネットワークの構築を進める。</p> <p>5. これらのことが実施できる職員の資質向上とコミュニケーション能力の向上など、人と人とを結ぶ仲介者としての役割が遂行できる能力や情報収集能力、対人支援知識習得のための研修受講に努める。</p> <p>6. フレイル予防、認知症予防に関する啓発活動やプログラム活動を支援する。</p> <p>7. 虐待防止や後見人制度等、高齢者の権利擁護についての理解や啓発を推進する。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア呉	部門	居宅介護支援事業所	報告者	栗田 実
事業目標	1. 事業の経営安定 2. 地域作りへの貢献				
事業計画	<p>1. 2019年1月より事業再開をした呉居宅であるが、現在要介護の利用者9名、要支援の利用者31名を担当している。当初の予定と比べ人数こそ40名いるが、要介護の利用者の獲得に大変苦勞し、現在のところ、予定人数の半分に満たない数にとどまっている。市内8ヶ所の地域包括支援センターや病院の地域医療連携室を繰り返し訪問し、営業活動を続けているが、圧倒的に要介護の利用者が少なく、どこの事業所も要介護利用者の獲得に必死になっているのが呉の現状のようである。それでも徐々に要介護者・要支援者とも増加傾向にあり、少しずつではあるが、地域や包括・医療関係者の信頼を回復しつつあることは感じる。今後も要介護者を中心に利用者の獲得を急ぎ、早く当初の目標である要介護換算40名(現状21.5名)を達成し、経営の安定を図りたい。</p> <p>2. 現在、事業所のある呉市中央地域のみならず、川尻・安浦地域など、広域的に活動の場を広げている。一昨年の災害からの復興半ばの地域も多く、また他の地域と比較しても独居高齢者の比率が大変高いのが呉の特徴となっている。こうした中で、呉市としても「在宅で粘る」と銘打ち、在宅介護に力を入れている。当事業所としても行政・地域と一体になって在宅福祉の一層の充実に貢献できるよう、連携に努めたい。</p>				

施設	グループホーム オリμπピア灘	報告者	管理者 長谷 順二
事業目標	1. 利用者の生活の質の向上 2. 認知症ケアの拠点としての地域交流 3. 職員の資質向上 4. 財政基盤の確立		
概要			
<p>18年目を迎えることになるオリμπピア灘では、地域密着事業としての地域との結びつきを大切にしながら活動している。生活の主人公はご利用者であるというオリμπピア灘の理念を実践し、利用者ひとりひとりに「その人らしさ」を大切に生活をしていただく。パーソンセンタードケアを基盤とした理念に基づいたケアをおこなっていただくために、スタッフが法人内外の力量に応じた学びを受けることができるように支援していく。また、新しく入職するスタッフへOJTを行い、全体の力量を底上げするべく指導や相談の体制を作る。目まぐるしく変化していく時代や制度に対応し、オリμπピア灘が認知症ケアの拠点として推進していく。そのために地域の社会資源との結びつきを強化し、助けを必要とされる全ての方へ支援を届けることを目標とする。</p>			
事業計画			
<p>1. 利用者の生活の質の向上「生活の主人公は利用者ご本人」であり、1日1日をその人らしく充実した生活を送れるようにお手伝いをさせていただく。そのため、スタッフ全員が「オリμπピアの理念」「オリμπピアの3つの約束」を根拠としてノーマライゼーションの実現を行う。日常から、利用者の希望や思いをくみ取り、オリμπピア灘に入居したからこそ、再び、夢や思いにチャレンジしていただくご支援を行う。ご本人、ご家族と共に作り上げるケアプランをケアの軸として、社会資源の活用、地域との結びつきを行い、ご本人の生活を向上していただく。ご本人とスタッフが協力してチャレンジを続けていく。</p> <p>2. 認知症ケアの拠点としての地域交流:入居者が地域との結びつきを築いていただくだけでなく、地域の困っている人が、オリμπピア灘を知っていただき、頼ることができるようになる存在となっていく。オリμπピア灘の存在、目的を知っていただくために地域交流を進めていく。散歩や買い物といった日常なことだけでなく、地域行事への積極的な参加を行う。2019年度も積極的に参加した地域ケア会議などの集いには関わっていき、地域との情報共有を行う。地域の方からの見学を積極的に受け入れ、介護や認知症の相談を受けていく。法人内外の資源を活用して、様々な方が気軽に入居できるホームとなっていく。</p> <p>3. 人材の育成:定期的なスタッフ雇用を行うため、公共の採用募集に力を入れるとともに、法人各部の長所を取り入れて広告としても採用活動を行う。採用となった職員が安心して働け、スタッフ全体の底上げをしていくためにも、入職後のOJTを行い、新人スタッフからの相談や指導を行う。公募制度、人事考課などの法人内の制度がキャリアアップに繋がりを、励みとしていけるように個人の力量に合わせた学びを行えるように体制を築く。スタッフとしての力量を向上させていくことはもちろんのこと、人としての成長を遂げることで、個人としてもチームとしても成長していける環境を作り上げていく。</p> <p>4. 財政基盤の確立:収入と支出を、積算を行い根拠のある数字として目標に向かう。制度の変化により、若干の数字が変わることはあるが、介護事業としての収入は「利用率の安定」「待機者の確保」を高いレベルで維持することで目的達成へと近づく。また、支出においては、スタッフ採用を直接雇用として増やしていき、コストの削減と体質強化ができることが目標達成への前提となる。職員の研修といった、必要な部分にこそ支出できるように守りでなく、攻めの運営が求められている。</p>			

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピック灘	部門	グループホーム	報告者	長谷 順二
事業目標	1. 入居者が主人公となる生活の場の構築 2. 職員のスキルアップと育成 3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4. 財政基盤の確立				
事業計画					
<p>1. 入居者が主人公となる生活の場の構築:「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念を日々実践する。これまで通りのおひとりおひとりにとっての普通の生活を過ごしていただくとともに、オリンピック灘へ来ていただいたからこそできる人生のチャレンジを支援させていただく。</p> <p>2. 職員のスキルアップと育成:事業所内の報告・連絡・相談体制を強固にし、迅速に対応していける仕組みを整える。新人職員のOJTから始まり、各職員がそれぞれの力量に合わせた学びが行える支援を進めていく。人事考課や研修への参加を促し、公募に対して積極的に挑戦していく職員を育てていく。</p> <p>3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動:認知症講演会を地域に向けて発信してだけでなく、法人が行う研修を外部へと発信していくことで、地域の認知症ケアの拠点となっていく。社会資源との結びつきを強めていき、地域からの見学を積極的に受け入れていくことで、地域のお困りの方へ支援をおこなっていく。</p> <p>4. 財政基盤の確立:年間稼働率98%以上を目指していく。そのために、利用率の向上と入居待機者の確保を行い、収入を安定させていく。職員の研修などの支出を強化し、骨太な職員体制を整えていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピック灘	部門	デイサービス	報告者	長谷 順二
事業目標	1. サービスの質の向上 2. 財政基盤の確立				
事業計画					
<p>1. サービスの質の向上:共用型のデイサービスという特徴を最大限に発揮する。グループホーム内で行うデイサービスの目的として、認知症ケアの実践であり、グループホームの入居者と行動を共にする生活に必要な実践的な活動をしていただく。大規模なデイサービスでは、馴染むことができない利用者もおり、少人数だからこそできるきめ細かなサービスが行き届くように、お一人ごとのプランを立てていく。2019年度は、利用者の中から法人特養ショートへ繋げることができたが、グループホームを中心として法人各部へ繋がっていく、在宅と施設の中継地点としての役割も意識して、ご本人、ご家族、ケアマネジャーなどの多職種と報連相を行う。デイサービスでの活動によって、在宅の生活が向上し、住み慣れた地域での生活を継続していただく。</p> <p>2. 財政基盤の確立:年間利用2.0/以上を目標としている。2019年度は、ショートステイ利用や入院による欠席が例年よりも大きかった。変わっていく状況に対して、3名しかない利用枠をどのように有効活用していくか、時にはケアマネジャーへの提言も必要となっている。事業所本体であるグループホームを財政的に支援していき、また入居者の待機場所としての機能が発揮できる部門として存在価値を高めていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫	報告者	館長 山口 幸
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
概要	<p>福祉を取り巻く状況が激変する中で、2020年度はオリンピア兵庫が今後の方向性を定める重要な年度となる。</p> <p>これまでの取り組みをふり返り、検証し、土台を確固たるものにした上で、新たな一歩を踏み出すことが求められる。</p> <p>そのため、「利用者ひとりひとりの"その人らしい"暮らしのために」という設立の理念にもう一度立ち返り、ケアのあり方、組織のあり方を徹底的に見直していく。スタッフひとりひとりの能力に頼るだけではなく、長期的に効率的、安定的な組織運営ができるように、人材育成およびシステムづくりに注力する。また、積極的な地域交流や地域に開かれたイベントを行うことにより、オリンピアのアクションが人と人とを繋ぎ、地域を動かしていくことができるようにする。固定観念にとらわれることなく、常に新しいことへのチャレンジを続け、日本の福祉をリードする立場であり続けたい。</p>		
事業計画	<p>1. 「小規模多機能ケア」の確立：利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することによって、「その人らしい」暮らしを住み慣れた地域で送ることを可能にすることが、小規模多機能ケアの本質である。オリンピア兵庫は、小規模多機能型施設のパイオニアとして、「小規模多機能ケア」本来のあり方を追究する。具体的には、グループホーム・ショートステイ・デイサービスの連携を強化することにより、複数サービス利用者の増加に繋げるほか、それぞれのユニットがビジョンを持ち、切磋琢磨しながら、より高い質のケアの実践に取り組む。</p> <p>2. 広報活動の強化：「オリンピア兵庫」の認知度を向上させ、各サービス利用者を確保するため、広報・PR活動を強化する。具体的には、新聞・雑誌・テレビ等各種メディアに対して積極的にプレスリリースを発出するほか、地域へのポスティング、戸別訪問を実施する。また、スタッフひとりひとりが積極的に外部の組織に参加し、人的ネットワークを拡げることにより、オリンピアの取り組みをより多くの人に浸透させる。さらに、Salon de l'Olympiaなどのイベント、Cafe Olympiaを活用することによって地域に開かれた施設づくりを行うほか、ボランティアや実習生、見学者などを積極的に受け入れることにより、地域への啓発活動にも努める。</p> <p>3. 財政基盤の確立：安定した施設運営を行うために、財政基盤を確立する。時代状況の変化、制度改正などに際しても安定した収入が確保できるように、徹底的な情報収集と迅速な対応を行うとともに、新たな収入源の可能性についても検討する。また、徹底したコストの見直しを定期的に変更することにより、効率的な運営を目指す。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦：地域の声に常に耳を傾け、いまオリンピア兵庫の力が必要とされているニーズに対して、積極的に新しいプロジェクトを立ち上げていく。プロジェクトメンバーには若手の人材から思い切った登用を行い、将来のステップへの備えとする。</p> <p>5. 人材の育成：オリンピアの目指す新しいケアのあり方に従来のマニュアル的対応は通用しない。自ら考え、判断し、適切な行動を取ることができる人材、そのスタッフを育てる人材が必要である。そこで、スタッフひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握するとともに、それぞれのステップに応じた研修を積極的に実施する。また、仕事の場以外でも自分を磨き成長させることができるようなチャンスを提供する。特に、ユニットリーダー以上のポジションのスタッフには、自分の後継者を複数育成することを課し、継続できる組織づくりを行う。</p>		



## 事業計画

2020年度

施設	オリンピック兵庫	部門	グループホーム	報告者	西塚 裕真
事業目標	1, ケア理念の遵守 2, 地域に密着した運営を行う。 3, スタッフの資質向上				
事業計画					
1. ケア理念の遵守					
ユニット毎のビジョンを明確にし、生活の場にふさわしい環境作りを行う。					
“生活の主人公はご利用者本人”と言うことを常に意識し、パーソンセンタードケアの実践を行う。					
ご利用者の個別理解に努め、ご本人の力を最大限に発揮していただけるお手伝いをする。					
2. 地域に密着した運営を行う。					
運営推進会議の内容の充実をはかる。					
地域各種団体との連携、地域行事等の参加を積極的に行い新たな繋がりを構築していく。					
3. スタッフの資質向上をめざす。					
ケアのみならず、マナー、接遇に対しても学ぶ機会を持ち、内部、外部に対しても気持ちの良い環境をつくる。					
理念を熟知し、オリンピックのスタッフとしてふさわしい考え、行動をする。					
内部、外部の研修を充実させ知識の引き出しを増やす。					

社会福祉法人光朔会

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピック兵庫	部門	ショートステイ	報告者	尾崎 真
事業目標	1. ショートステイの役割について 2. 稼働率の安定 3. 魅力ある職場環境づくり				
事業計画					
1. 介護でお困りのご家庭に対して救いの場となるよう発信をし続ける。それにより介護者の疲れをきっかけとして起こる事件、事故等からの救済を目指す。ご利用者自身が自宅において継続した安心出来る暮らしのお手伝いを実践する。またレスパイトケアによってその期間は主介護者も心身ともにリフレッシュとなるよう努める。					
2. 稼働率を安定させることで収入の安定を図る。またその為にもご利用者へ常により良いサービス提供が出来るように努める。またショートステイにおいて『サービス』とはご利用者に対してその瞬間スタッフが何を提供することが出来るか考えるという行動を指して『サービス』と定義する。同時にオリンピックの理念と3つの約束という光朔会の羅針盤を理解しつつ部門として掲げる「温もりのあるショートステイ」を実践する。					
3. 今いる職員に対してはもとより外部から見ても魅力ある職場環境を目指す。職員一人ひとりが輝ける場所となるように労働環境の見直しを常に課題として考えていく。職員自身が誇りを持てる職場にすることでその周りの方々にも自信をもって紹介できる職場を目指す。また個々の得意分野を伸ばすことが出来るよう内部、外部を問わず研修への参加を促し、社会人として、又ひとりの人間としての成長をそれを通して図る。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 2020年度収入予算の達成へ向けた利用者確保 2. 地域との密着 3. 人材募集育成の強化 4. 新たな保険外事業への挑戦				
事業計画					
1. 2020年度収入予算の達成へ向けた利用者確保					
区役所が主催する地域ケアネット活動を通じて地域ケア会議のメンバーとして活動を行う					
本体事業を補強するための保険外事業を積極的に受入、実施する					
2. 地域との密着					
地域密着型として運営推進会議等を通じて、地域の介護拠点としての地位を確立する					
3. 人材募集育成の強化					
法人内外他事業所への派遣研修を通して知識、ケアのさらなる向上を目指す					
研修、実習生の受入を通して、自己研鑽を行う					
4. 保険外事業への挑戦					
初任者研修、サポーター養成研修等の経験を活かした保険外事業への挑戦を続ける					
人材育成とも連携した形で新たな事業に活かせるものとする					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者	中村 文香
事業目標	1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践 2. 他部門との連携強化 3. ヘルパーの養成 4. 保険外サービスの具体化				
事業計画					
1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践：ヘルパーによる支援がただの家事労働の延長ではなく、家事援助を通じた生活密着型の支援であり、それによってご利用者はその日常生活を回復し、みずからの生活イメージを取り戻して、自らの生活設計に取り組むことを可能にするようなケアを目指す。					
2. 他部門との連携強化：ヘルパーによる支援は「関係性」の中で展開される。同じ施設内のサービスを使って頂くことで、情報共有もスムーズになり、顔を合わせる機会も増えるため、安心してサービスを受けて頂くことが可能になる。居宅系サービスの3部門が協力し、兵庫全体で総合的なサービス提供を行う事で、ご利用者により安心して、サービスを利用していただく。					
3. ヘルパーの養成：定期的に実践レベルでの研修を実施し、現場でのケア・サービスの質の向上をはかる。また、所属するヘルパー一人ひとりの特性を活かし、より専門性の高いケアを提供出来る体制を整える。					
4. 保険外サービスの具体化：新総合事業開始が目前に迫っている。介護報酬に頼らない収入源の確保とともに、"オリンピックにしかできない"ケア・サービスの提供を行っていく。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしての資質向上 4. 新規利用者の獲得 5. 利用者、家族の尊重				
事業計画	<p>1. 財政基盤の確立:2020年度の収支差額でのプラスを達成し、法人の財政基盤の確立に貢献する。</p> <p>2. 地域、他事業所との連携強化:地域住民、関係機関、病院、あんしんすこやかセンター、他のサービス事業所との関係づくりを常に行い、利用者が自宅での暮らしを安全に継続していけるように努力する。地域資源の発掘と活用に取り組み、利用者の生活の質を向上できるようにする。多(他)職種連携を意識し、支援を実施する。</p> <p>3. ケアマネジャーとしての資質向上:外部、内部を問わずに研修会、勉強会へ積極的に参加して、ケアマネジャーとしての資質向上に努める。介護保険制度の情報も意識して収集を行っていく。</p> <p>4. 新規利用者の獲得:要介護、要支援の利用者を積極的に受け入れる。担当が可能な件数を維持して、より多くの方に居宅介護支援を提供する。</p> <p>5. 利用者、家族の尊重:利用者、家族の希望する生活が維持できるよう、毎月のアセスメントによって適切なサービスを導入する。利用者一人一人のニーズに合わせ、利用者、家族との相談を実施して柔軟な対応を行う。</p>				

施設	オリンピア都こども園	報告者	園長 三好美佐子
事業目標	1. オリンピア・都こども園の理念、理解の徹底 2. 認定こども園教育・保育の充実 3. 地域子育て支援の充実 4. 教育・保育専門職としての資質向上 5. 関係団体との連携 6. 人材の定着と確保 7. 次世代育成		
概要	<p>幼保連携型認定こども園として、0歳児の愛着形成の時期から子どもの主体性を育てる就学前の時期までの6年間を途切れることのない流れのある教育・保育を展開することに注力する。そして、すべての子どもに開かれた認定こども園として、地域の子育て世帯に積極的に情報発信をしていく。3歳児以上の教育・保育の無償化がスタートして子育て世帯から選ばれる時代が着実に近づいている。選ばれるためには、年々多様化する子育てニーズに敏感に反応し、スピード感をもった対応が必須である。一人一人の子どもたちがその子らしく、心も身体も安心してのびのびと過ごせる都こども園であるように、また、保護者の子育ての良きパートナーシップとしての役割を今までと変わらず、より充実させて責任をもって果たせる1年としたい。</p>		
事業計画	<p>1. オリンピアの理念、都こども園の理念理解の徹底：子どもたちが自分らしく輝き生きる力を育む教育・保育とは何か、それを実践するためにはどうすればよいか、イエス・キリストの愛と奉仕の精神をもって行動できているか、全職員で考え行動できるようにしていく。一人一人の子どもが中心にあり、より良い成長を支える良き職員集団として、理解・協力・切磋琢磨できる関係性を大切にする。</p> <p>2. 認定こども園教育・保育の充実：一人一人の情緒の安定(養護)を基本とし、そこに発達に応じた子どもの興味・関心を満足させる活動(教育)を展開していく。子どもが「やってみたい！」と感じる魅力的な環境作り、活動が発展していくための適切な援助、過程を大切にしている行事を計画・実践する。主体的な子どもの育ちを尊重し、「だいじょうぶだよ」とあたたかく見守る姿勢を貫く。</p> <p>3. 地域子育て支援の充実：一時保育利用児は年々減少傾向にあるが、子育て不安や緊急的なケースに迅速に対応していく。未就園児に向け、体験保育や給食試食会、園行事への参加、母子分離による母親講座等のプログラムの充実を図る。</p> <p>4. 教育・保育専門職としての資質向上：経験年数に応じた役割、学ぶべき課題を明確にし、キャリアアップ研修の受講、関係団体主催の研修や研究大会への参加、共に学び合う園内研修の充実を図る。</p> <p>5. 関係団体との連携：聖公会保育連盟、キリスト教保育連盟、神戸市私立保育園連盟等の研修や事業に積極的に参加、参画する。子どもの成長の連続性を確保するため、小学校との接続、スタートカリキュラムを実践する。地域にある園として、地域の皆さまのご理解ご協力に感謝し、地域行事への参加、園行事へのお誘い、職員による地域清掃活動を引き続きおこなう。</p> <p>6. 人材の定着と確保：近年、保育教諭・栄養士等の人材の確保が大変困難になっている。オリンピアを選んで働いている職員の定着のため、どんなことでも相談できる環境作り、一人ひとりがやりがいを感じられる職務内容を整えていく。人材確保に向けては、養成校との連携、実習生・ボランティアに対し、「子どもに関わることが楽しい」と感じられる丁寧な指導を通して、就職につなげていく。</p> <p>7. 次世代育成：地域中学校・高校のトライやるウィーク、ワークキャンプ、ボランティアを積極的に受け入れることにより、子どもに関わる職のすばらしさを伝えていく。</p>		

施設	オリンピア神戸北保育園	報告者	園長 村上徳光
事業目標	1. 健全財政の安定 2. 育児担当制保育の充実 3. 保育の質を高めるために職員の専門性の向上 4. 職員の業務効率化		
概要			
<p>法人基本方針「イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、その人らしく光り輝いて暮らすことができる社会を実現する。」というに則り、神様によって創造されたかけがいのない存在として一人ひとりの子どもを受け容れます。</p> <p>「今日一日を精一杯生き、心から楽しむ」ことのでき、こどもたちが、家庭的な雰囲気の中で、安心して生活ができるように、育児担当制保育を行い、日々の生活の中で、こどもたちが、自分で主体的に選択、判断し、責任をもって遊ぶことができる環境を提供します。公益法人として、地域における子育て支援のため、子育て中の保護者へのサポートをより充実させ、社会的役割を果たす。</p>			
事業計画			
<p><b>1. 健全財政の安定</b></p> <p>2020年4月の在園児数は、0歳児－5名、1歳児－24名、2歳児－24名、3歳児－27名、4歳児－26名、5歳児－26名の計132名で定員は満たしているものの、0歳児の在園が少ないため2019年度の反省からなるべく早い時点で0歳児を獲得するため、北神福祉事務所との連携をより密にしていく。また、支出抑制のため10年を超えた躯体、設備等々のメンテナンスを今まで以上に心がける。</p> <p><b>2. 育児担当制の充実</b></p> <p>保育所保育指針においても子どもが安心・安定した生活が送れるようにする「養護」とともに、人格形成の基礎を培う「教育」を一体的に行うことが強調されており、それに対応するべく子どもが安心して過ごせるように、「流れる日課」と育児担当制を充実させ、一人ひとりの子どもの行為や生活全体がスムーズに流れ、不必要に待つ時間や中断されることのない日課の作成をする。</p> <p>日課を一斉に行うとなく、子ども一人ひとりの生体リズムや生活リズムを考慮し、一人ひとりに合わせ担当グループを作り、それをクラス全体の日課に取り込み、それぞれが円滑な連携を図り進める。</p> <p><b>3. 保育の質を高めるために職員の専門性の向上</b></p> <p>育児担当制を含め、内部研修会を定期的に持つとともに、保育者みんなで幼児の遊びの姿や保育者の関わりと環境の構成などについて意見を出し合い、幼児理解を深め、保育力を高めための保育カンファレンスを行い職員個々の専門性を高めていく。</p> <p><b>4. 職員の業務効率化</b></p> <p>神戸市の補助金(100万円)を活用してICTを導入。児童計画や、日誌を始とした記録物、行政提出書類等をペーパーレス管理をする。さらに、書類の過去の入力内容を参照することにより、入力効率を高め書類の品質を維持しながら、入力時間の短縮を図り、業務効率化を進め、保育士の離職率を下げ不要な採用コストを削減する。</p>			

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西	報告者	施設長 櫻井 敬介
事業目標	1. 総合的な福祉活動の展開 2. 財政基盤の確立 3. 光朔会と地域との架け橋を担い、理念に基づいた実践と新たなチャレンジ 4. 小規模多機能ケアの確立 5. 人材確保と育成(研修)		
概要	<p>オリンピア神戸西は開設より11年目を迎える。2020年度は今まで歩んできた道のりを振り返り、それを礎としたうえで新たな一歩を踏み出す年にしていきたい。社会福祉法人光朔会オリンピアの一拠点として、地域に根付き、法人の理念に基づいたノーマライゼーション社会の実現、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会の実現を目指し、時代の変化に対応しながらオリンピアとしての事業展開・サービス提供に取り組んでいく。</p> <p>更なるチャレンジを行う為にも、収支の安定、利用者・待機者の獲得、人材の確保・育成を図る必要がある。</p> <p>今後も地域における福祉の拠点としてのポジションを担い、地域に必要とされる施設であり続けるとともに、入居者・利用者だけでなく、オリンピア神戸西に携わる誰もが輝くことができる施設を目指す。</p>		
事業計画	<p>1. 総合的な福祉活動の展開: 特別養護老人ホームの入所部門、小規模多機能ホームの通所部門、居宅介護支援事業所の在宅部門、他にも専門職を地域に派遣し、高齢者料理教室や親子料理教室、地域の自治会との防災訓練や介護相談や健康相談等、高齢者総合福祉施設としての働きを一層充実させ、法人の活動を地域へ根付かせていく。</p> <p>2. 財政基盤の確立: 居宅介護支援での新規利用者獲得・新天地開拓、特養・多機能の稼働率95%以上の維持を図り、保険収入の安定化を目指す。居宅・小規模多機能・特養のそれぞれが協力し、連携をとることと各部門が力を発揮し、予算達成することで財政基盤の確立を図る。支出に関しても、内容を精査し、無駄な支出をなくし、収支の安定を図る。</p> <p>3. 光朔会と地域との架け橋を担い、理念に基づいた実践と新たなチャレンジ: 地域との協働を生かし、法人の取り組みを積極的にPRしていく。そして、地域の方が今まで以上に当施設に気軽に入って来られる仕組みを作り、地域の高齢者ケアの拠点となると共に、喫茶を有効利用し、地域にとっての憩いの場となるような交流を行ってきたい。法人との架け橋を生かし、総合的な相談窓口を担う事業の実践と並行して、いつまでもその人らしく地域で暮らせる為の支援、及び、新たな提案を行ってきたい。</p> <p>4. 小規模多機能ケアの確立: 利用者おひとりおひとりに対して、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援していく。各部門間の連携により、いつまでも、「その人らしく」輝ける暮らしを支援していく。地域密着型ならではの施設と地域の垣根を超えた交流をケアに反映し、総合福祉施設として各利用者、入居者のニーズに対応できるよう軽やかに、かつきめ細やかな、画一的ではない個別ケアの実践を行う。誰もが輝き、希望を見出せる取り組みへのチャレンジを継続し、その経験の積み重ねにより、ケアの充実、進化を図る。</p> <p>5. 人材確保と育成(研修): 今年度は神戸西全体で常勤換算4名分の介護職員採用を目標とする。そのために実習生の受け入れ、各種学校への定期的な訪問を強化し、新卒採用に繋がる求人活動を行う。それと並行して、媒体等を活用した求人活動やリファラル採用を展開し、雇用促進に繋げる。また、各スタッフの段階に応じた研修を受講できるシステムを構築することで介護職としてだけでなく人として成長できる環境を整える。将来を見据えた人材育成、組織づくりを行い、安定した施設運営を目指す。</p>		

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピック神戸西	部門	小規模多機能ホーム	報告者	平山 陽三
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフの確保と資質向上 4. 地域の拠点作り				
事業計画					
1. その人らしい暮らしの実現:ノーマライゼーションの理念に則り、一日の利用定員の範囲内で、少しでも多くの方を受け入れ、通い、泊まりのサービスだけでなく、訪問サービスにも力を入れ、利用者に合わせて支援し、自宅での生活の継続に努める。ご本人の要望だけでなく、ご家族の希望も取り入れ、安全安心な暮らしができるよう、スタッフはチーム一丸となって関わっていく。					
2. 財政基盤の確立:収入目標83,408千円。法令遵守の上で、登録者数を29名確保し、安定した収入の確保を目指す。各種加算の算定対象となるように、スタッフの確保、継続勤務に繋がる体制作りを行う。					
3. スタッフの確保と資質向上:資格要件を満たした人員を十分に確保する(年間2名採用予定)。 研修計画に基づき、内部・外部研修を通して、ケアの標準化及びスタッフの資質向上を目指す。リーダーを中心に、神戸市主催の認知症実践者研修や毎月行われる多機能連絡会主催の研修等に参加する。					
4. 地域の拠点作り:地域の行事にスタッフだけでなく利用者も参加し、繋がりを深めていく。老若男女問わず、多くの地域の方々が訪れることができる拠点を目指し、開かれた相談窓口として地域に貢献していく。					

社会福祉法人光朔会

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピック神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	櫻井 敬介
事業目標	1. オリンピアの理念の遵守 2. 地域共生 3. 人材確保と育成(研修) 4. 健全な財政基盤の確立				
事業計画					
1. オリンピアの理念の遵守:オリンピックの理念を遵守し、入居者の尊厳を守ることで、入居者が日々の暮らしの中で自己選択・自己決定を行い「その人らしい」生活を送ることができる入居者主体のケアを行う。入居者、スタッフが一つのチームとして成長し続けることができる関係を構築する。					
2. 地域共生:地域の一員として、特別養護老人ホームが有する資源やノウハウを地域に還元し、地域住民の介護相談窓口としてのポジションを確立する。施設と地域、双方向の交流を行うことで「まちづくり」に貢献する。					
3. 人材確保と育成(研修):年間で常勤換算3名のスタッフを確保できるよう採用活動を行う。また、各スタッフのキャリアやスキルに応じた研修が受講できるような体系だった研修システムの構築を図り、介護職としてだけでなく人として成長できる環境を創造する。					
4. 健全な財政基盤の確立:年間稼働率99.0%を目標とし、安定した保険収入を得られるよう努力する。空床発生時にはショートステイを利用して頂き、空室を最小限に抑えられるよう迅速な対応を行う。また、入居申込者の確保に尽力する。安定した収入とメリハリのある支出を心懸け、健全な運営を目指す。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア明石	部門	居宅介護支援事業所	報告者	富松 晃子
事業目標	1. 地域の相談窓口としての役割を担う。 2. 他部門と連携での支援 3. 財政の安定 4. 人材育成と資質の向上				
事業計画	<p>1. 地域の相談窓口としての役割を担う。:地域住民との繋がりを構築し、様々な相談に対し迅速に対応し、その人らしい生活、暮らしが送れるよう質の高い支援を行います。(主に神戸市西区・明石市)</p> <p>2. 他部門と連携での支援:各地区のあんしんすこやかセンターをはじめ、各医療機関・地域ボランティア等の関係・関わりを持ち、法人内の横の繋がりを活かしながら、お困りの方の支援を行っていきます。</p> <p>3. 財政の安定:2名体制を確保し、業務内容を充実させ、安定した稼働率を実現し、収入確保出来るようにします。</p> <p>4. 人材の育成と資質の向上:神戸市・明石市で開催するケアマネ研修には積極的に参加し、居宅介護支援専門員としての質の向上を目指し、法人の理念である「ノーマライゼーション」「パーソンセンタード・ケア」に基づいた支援を実践していきます。適切な判断、行動が出来る人材として職員同士が、協調し、情報の共有をしながら、オリンピアにふさわしい人材の育成と組織作りをしていきます。職員の中途退職がないように接して行きます。</p>				



施設	神戸市立都児童館	報告者	館長 森下 洋子
事業目標	1. 児童の健全育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ) 4. 地域への貢献 5. 職員の資質の向上		
概要	<p>オリンピアの理念を軸として利用者ひとりひとりの居場所となる場を提供し、児童館の担う役割をしっかりと果たしていく。</p> <p>親子プログラムを通して、母親の居場所づくりと仲間づくりの拠点となるよう配慮し、継続利用に繋がるようにする。</p> <p>放課後児童クラブにおいては、児童館と六甲学童保育コーナーそれぞれの環境的特性を活かしていく。また、双方の交流も大切に、学童という集団生活の中で社会性を培うことができるよう子どもたちを見守っていく。更に一般来館児童と放課後児童クラブの児童の交流を図るべく、月行事のプログラムの充実を図る。保護者との信頼関係がより強固なものとなるよう努力する。コミュニティ事業を通して地域との連携を大切にしていく。そして、毎朝朝礼での「オリンピアの理念と3つの約束」の復唱、礼拝の充実を図り、職員全体の根本的意識向上を図り、揺るぎのない運営ができるようにしていく。</p>		
事業計画	<p>1. 児童の健全育成</p> <p>遊びや行事を通して異年齢児や地域の方との交流を図り、その中で集団モラルを学べるように支援する。</p> <p>安全を第一に、子どもたちの居場所づくりとして、積極的に職員が遊びに関わり個別的・集団的に支援していく。</p> <p>また、「生きる力」が育つようにひとりひとりを尊重した見守りをしていく。</p> <p>親子での参加行事や、地域の方との交流行事、季節行事、月行事など内容の充実を図り、楽しさを提供する。</p> <p>2. 子育てと家庭の支援</p> <p>子育て支援、母親の居場所づくり、仲間づくりの拠点となるように下記の事業を実施する。</p> <p>*すこやかクラブ*キッズクラブ*なかよしひろば(赤ちゃんタイム・一歳児タイム・ママのリフレッシュタイム・子育てママのティータイム・ママのホットタイム)*母親対象講座*親と子のふれあい講座*子育てコミュニティ育成事業</p> <p>3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ:学童)</p> <p>家庭的な雰囲気の中で集団生活の規律を守り、ひとりひとりが協力・寛容・自立ということを理解できるよう支援し、児童の健全な育成を図る。また、色々な場面で想像力を働かせることができる(行動に伴う結果予測)ようにし、安全を図る。</p> <p>合同お誕生日会や合同お楽しみ会、児童館行事等への参加を通して、子どもの心と体の健康を図る。</p> <p>長時間学童で過ごす子どもたち個々の心のよりどころとなる支援に加え、保護者が安心できるように配慮していく。</p> <p>4. 地域への貢献</p> <p>地域の方の活動に積極的に参加し、お互いの理解を深めると共に、子育て支援、家庭支援に繋がる地域社会を目指し、異世代間で楽しめるプログラム(コミュニティ事業)を年間を通して実施する。</p> <p>5. 職員の資質の向上</p> <p>社会福祉法人光朔会オリンピアの一員であることの誇りを持ち、児童館職員としての自覚と責任をもって行動する。</p> <p>オリンピアの理念とキリスト教主義に則り、利用者ひとりひとりに対して個を尊重した対応をしていく。</p> <p>職員ひとりひとりのもてる力を最大限に発揮することで、職員の自信に繋がるよう配慮し、更なる成長を図る。</p> <p>また、職員同士の共通理解を図るとともに、お互いに成長しようという環境づくりに努める。</p> <p>指導員研修や合同行事から学んだことを活かしていく。活動の振り返りを積極的に行い、次に繋げるようにする。</p>		

施設	サービス付き高齢者向け住宅オリンピア鶴甲	報告者	施設長 前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 各種講演会やイベント開催 4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す		
概要			
<p>サービス付き高齢者向け住宅の入居条件としては60歳以上の方で非該当の方から要介護・認知症の方等、これまで自宅で不安を抱えて生活を送って来られた方々に対して、これまで通りのライフスタイルを続けて頂き利用者の方が不安な部分に対しては24時間の見守りや状況把握、生活支援サービス及び食事や家事等の支援により、その人らしい生活を送って頂く。外出同行サービスや趣味等の活動に参加して頂き、豊かな時間と安心した暮らしを提供します。訪問介護事業所・通所介護事業所を併設し、オリンピアで培った質の高いサービスを住宅部門は基より地域の方々へも提供していく。また、デイルームの空き時間を利用して地域の方々との交流を図り、地域基盤を確立していきながら、入居待機者及びデイサービス利用者を獲得する。</p>			
事業計画			
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:これまで自宅で送って来られた生活と変わらないライフスタイルを継続していける様に入居者のお一人おひとりに寄り添ったサービスを提供し、「その人らしい」暮らしのお手伝いをする。入居者の皆様に「鶴甲を選んで良かった」と思ってもらえる様に安心出来る生活環境を提供する。</p> <p>2. 財政基盤の確立:利用者の皆様の「安心してこれまで通りの暮らしを続けたい」というご要望に応えるためには、活動の基となる財政基盤を安定させることが必要不可欠であり、常時20室満室の状態を維持していく必要がある。常時利用者の方に生活して頂ける状態を維持していくために、入退去の状況を見極めていき、退去者が出た場合でも速やかに新しい方が入居出来る様、入居希望の待機者獲得に努める。収支の状況も的確に把握していき、収入と支出のバランスを取っていくことで、コストを意識し収益の確保を目指す。</p> <p>3. 各種講演会やイベント開催:各種講演会やイベント開催を定期的に行い、近隣地域の方へ様々な情報を鶴甲から発信することで、入居希望の待機者及びデイサービス・ヘルパー利用者の獲得に繋げる。</p> <p>4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す:快適な生活環境を整え、入居者の方に安心して生活を送って頂くために、日常の生活は基より、定期点検にも細心の注意を配る必要がある。また、安全への配慮・対策として平素から火災発生の防止に万全を期し、防災関係設備・機器の整備点検を十分に行い、年2回の避難防災訓練を実施し、消防署・地域の協力を得て利用者の方の安全対策に努める。非常災害時においても最大限に利用者の方の安全を図るとともに、地域の防災拠点としての役割を担っていく。</p>			

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	サ高住	報告者	前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す				
事業計画					
1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:これまで自宅で送って来られた生活と変わらない生活様式を継続していける様に入居者のお一人おひとりに寄り添ったサービスを提供し、「その人らしい」暮らしを支援する。 入居者の皆様に「鶴甲を選んで良かった」と思ってもらえる様、安心出来る生活環境を提供していく。					
2. 財政基盤の確立:利用者の皆様に「安心してこれまでの暮らしを続けていきたい」というご要望に応えるためには、活動の基となる財政基盤を安定させることが必要不可欠であり、常時20室満室の状態を維持していく必要がある。入退去の状況を見極めていき、退去者が出た場合でも速やかに新しい方が入居出来る様、入居待機者の獲得に努める。収支の状況も的確に把握し、収益の確保を目指す。					
3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す:快適な生活環境を整え、入居者の方に安心して生活を送って頂くために、日常の生活は基より、定期点検にも細心の注意を配り、危険箇所等が無い様に建物の維持管理を行っていく。					

社会福祉法人光朔会

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	ヘルパーステーション	報告者	下地 正樹
事業目標	1. オリンピアとしてのケア追及。 2. 人材確保・育成。 3. 財政基盤の確立。 4. 広報活動の強化。				
事業計画					
1. オリンピアとしてのケア追及:利用者様 目線で 利用者様の声なき声を認識し、パーソンセンタードケアを実践していき、その人らしい尊厳を持った暮らしを続けられるように ケアを実践する。 オリンピック鶴甲のヘルパーに頼めば安心、何とかしてくれるの声を 大切にし期待に応える。					
2. 人材確保・育成友達紹介で ヘルパーが確保できましたが 朝夕のケアや まだカバーできていない曜日があつたり コールや問い合わせに 対応できていません いろいろな媒体も含め 人材確保に努めます。 採用できた人材も 今までの施設感覚での対応から サ高住としての 対応への教育を進めます。					
3. 財政基盤の確立:人材を確保したうえで、利用者様のご要望や コール対応に柔軟に答えることで、自費などの、対応を増加させる。いろいろな介護経験者の 意見を取り入れながら ケアの質の向上を図り、対応の幅を広げるとともに ヘルパー自身の技能レベルアップを図り 高品質なケアを実施する。					
4. 広報活動の強化:地域や医療介護連絡会に出席し 病院の地域連携室や居宅会議事業所にオリンピック鶴甲の ファンを増加させるような PRをする。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア鶴甲	部門	デイサービス	報告者	渡部 倫成
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				
事業計画					
<p>1. 財政基盤の確立:利用者数を上限数にすることを目標として、あんしんすこやかセンター、居宅介護支援事業所の訪問を続け、新規利用者獲得に繋げる。好評である音楽療法や食事イベントを継続して行う等、少しでも多くのアピール方法を思案し実行することで収益を上げていく。</p> <p>2. サービスの質の向上:スタッフひとりひとりがオリンピアの理念をしっかり理解及び把握をして、それに基づき利用者様のニーズにお応えできる体制を整えていく。</p> <p>3. 人材の確保・育成:利用者様の思いをいつでも受け入れられる体制をつくり、利用者様が望まれるであろうことをスタッフ全員が考え、進んで行えるような組織にし、互いに刺激しあいサービスの質を高めていけるよう人材育成を図る。</p>					

施設	グループホームオリンピア篠原	報告者	管理者 上野 鋭一郎
事業目標	1. 「認知症ケア」の確立 2. 地域密着の浸透 3. 人材の育成 4. 財政基盤の確立		
概要			
<p>2015年に開所したオリンピア篠原は、5年間で着実に地域に根ざしたホームとなった。「認知症ケアの拠点」として「地域交流の場」として、今年度も更なる「情報発信の拠点」となれるよう力強く推進する1年となる。</p> <p>住み慣れた地域で継続的に生活し続けるため、地域に出て行き、地域の方々を迎える相互交流を継続的に行っていく。新しいチャレンジを続けるために、安定した収入の確保、人材の雇用、育成が必要となってくる。</p> <p>オリンピア篠原が地域社会から必要とされる存在で有り続けることで、ノーマライゼーションを実現していく拠点となる。また、スタッフの自発的な研修参加だけでなく、必要とされる研修を全スタッフが受講し、個々のスキルアップを図っていく。</p>			
事業計画			
<p>1. 「認知症ケア」の確立: 「オリンピアの理念」をケアの礎とし、パーソンセンタードケアを基本とした根拠あるケアを実践していく。スタッフ一人ひとりが認知症ケアを実践していくと同時に、指導していくことが出来るスタッフの育成を目標とする。今年度もオリンピアの認知症ケア、個別ケアを理解し、実践していくことで、地域の認知症ケア、高齢者ケアの拠点となる。</p> <p>2. 地域密着の浸透: 入居者の皆様と地域に出向き、地域の祭り等行事に積極的に参加していく。また、町内会、自治会活動にも積極的に参加し、地域の一員として、協働していく。昨年度より始めた地域の方々をお迎えしての「地域交流会」を定期的で開催し、地域の交流の場として気軽に来て頂けるように、解放していく。</p> <p>入居の相談、高齢者介護や認知症ケアの相談窓口となり、地域の中で最期まで安心して暮らして頂けるよう、お手伝いしていく。</p> <p>3. 人材の育成: オリンピア篠原研修計画を提示し、正職、パート職関わらず全職員が、意欲的に取り組むシステムを作る。職員はスキルアップを図るため課題を抽出し、研修計画を立て、法人内外関わらず、意欲的に研修に参加し、底上げを図っていく。また、中堅職員は、新人職員の育成を行うことにより、自分自身のスキルを見直す機会とする。また、ユニットリーダー以上は次のリーダー候補を育成するための準備を日々行っていく。</p> <p>新規の人材を確保するために、将来を見越して実習生、研修生の受け入れ、中学・高校生の介護体験の受け入れ等を積極的に行う。</p> <p>4. 財政基盤の確立: 年々変わる介護保険制度をきっちりと理解し、安定した収入の確保と適正な支出を運営することが重要であることには変わりはない。徹底的に情報収集し、迅速に対処していく。収入に関しては1年トータルで考えて平均稼働率97%台をキープする。入退院、退居による空室は毎年起こりうることで有り、空室期間をいかに最小限にするかが課題となる。新入居者に早く入って頂くため、待機者を常時複数名確保する。日々の入居者、入居待機者の状況の把握に努めていく。また、保険外の事業として、入居者様の旅行や外出を支援していく。入居者様の希望や夢の実現のための体制を整え「これまで通りの生活のお手伝いをさせていただきます。」という理念に沿った取り組みを数多く実現していく。目的をしっかり持った保険外プログラムの実現により、入居者様の満足度向上と収入の安定に繋げていく。</p>			

施設	障害者就労支援センター オリンピア岩屋	報告者	管理者 細田尚誉
事業目標	1. 障害部門の確立 2. 地域ネットワークの構築と啓発 3. 利用者支援の向上 4. 人材確保と教育・育成 5. 利用者獲得への展開 6. 財政の適正化		
概要	<p>障害部門も9年目を迎え就労継続支援B型、GH長峰、生活介護と計4事業所まで広げることが出来ている。</p> <p>10周年という一つの区切りを迎えるにあたり、改めて現状の把握を行い足元を固める事を徹底する必要がある。</p> <p>そのためには事業所間の連携はもとより職員間の連携を強化し、組織として事業運営に携われるように部門として取り組める人材教育・育成を執り行っていく。また地域への交流を積極的に図りイベント等への参加により「オリンピア岩屋」の認知度を更に向上させて行く事が出来るよう常に前向きに挑戦し続けていきたい。</p> <p>利用者の方々も年々増加しているなか現在のサービス内容に慢心することなく、「利用者ひとりひとりの持てる力を最大限に引き出せる」よう支援の在り方も初心を忘れることなく取り組んでいきたい。</p>		
事業計画	<p>1. 障害部門の確立：就労継続支援B型、GH長峰、生活介護の各分野間の連携を充実させて利用者に対して最大限に適切な支援を行える環境を提供できるように取り組む。具体的に支援計画をより幅の広いものとし、どの事業所のサービスが利用者本人に対して適切であるかを部門間で共有できるように取り組む。</p> <p>2. 地域ネットワークの構築と啓発：地域交流を継続的に行ってきたことは利用者自身の活動目的や社会交流への意識を高める場として非常に重要であり、各関連事業所との関係を強化しオリンピアの取り組みをより周知して頂ける機会、認知度を上げる広報活動としても取り組んで行く。それに伴い見学者・実習生の受け入れを積極的に行うことで地域の啓発活動への取り組みも同時に行っていき更に地域と繋がっていく。</p> <p>3. 利用者支援の向上：現状の軽作業が継続的に中心になるが、野外の清掃活動や農作業の充実やイベント参加による物販等利用者の取り組めるべき作業の幅を広げ、より就労に対する意欲の向上に繋がる支援ができるように積極的に新しいものに対しても取り組んで行く。部門間で作業の細分化も含めて利用者ひとりひとりに対してレベルアップが出来るように作業内容も精査して提供を行っていく。</p> <p>4. 人材確保と教育・育成：継続的に利用者に対してサービスを提供するには、スタッフの安定した組織が必要で、各役職に配置できる人材を確保するためにも現スタッフをベースに自分から発信し判断し取り組める姿勢で物事を考え、その内容をスタッフ間で共有することを行い互いの課題を明確にし取り組むことで相手のことを考えながら共通認識を構築できる関係を築きたい。その上で法人内外の研修にも積極的に参加を行い、常に新しい取り組みや新しい人とのつながりを広げていく行動を起こしていきたい。</p> <p>5. 利用者獲得への展開：就労継続支援B型の事業所の2拠点は利用契約者数も定員を上回るころまで来ている。新規利用者を継続的に獲得していくためにも部門内での併用や利用サービスの変更も考えている。並行して定員の拡大やサービス事業の変更も利用者にとって最大限に行える支援を常に模索しながら取り組んでいく必要があると考えている。オリンピアを希望されて来られる方々のためにもビジョンを持って取り組む。</p> <p>6. 財政の適正化：事業所としての支出の削減は細かな見直しを継続していく。収益に関しては利用者工賃を作業収益で賄う事が最低限の目標であり、適正な運営が出来るように利用者の方々に負担が関わることのないように新しい作業も含め営業活動も執り行っていく。</p>		

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピック岩屋	部門	就労継続支援B型	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 地域での交流と啓発 2. 職員の育成 3. 障害部門内の連携				
事業計画					
<p>1. 地域での交流と啓発: 地域に更に周知していただくために地域のイベントへ積極的に利用者に参加をし、接点をより多く方に広げ利用者にとってのネットワークを地域に広げたい。交流活動への積極的な参加を中心に障がい児の理解を深める機会と見学・体験などを受け入れることで、地域への啓発活動にも取り組んで行く。</p> <p>2. 職員の育成: 障がい者への理解や知識を深めることは常に取り組むべきこととして、『気づきの力』を考えて行っていく。各々に違ったステップはあるが、持っている能力を発揮するためには利用者の細かなことに『気づく』ことである。職員全員が多くのことを考え相談し適切に対応することが職員間の連携と現状の把握につながり、自分自身の課題の発見となりより成長できる機会としていきたい。</p> <p>3. 障害部門内の連携: 9年目となるオリンピック岩屋は改めて土台を堅固なものとするために4事業所まで増えた障がい者部門全体と密に連携が取れる組織として活動できるよう、職員の勉強会や職員を定期的に他事業所と交換することで常にどの職員でも対応の出来るものとしたい。10年目に向けて初心に戻り、大きく進める準備に向けて部門一丸となって取り組める関係を築きたい。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピック住吉	部門	就労継続支援B型	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 利用者支援の向上 2. 新規メンバーの獲得と既存メンバーの出席率向上 3. 法人内連携による作業強化 4. 人材確保と育成(研修)				
事業計画					
<p>1. 利用者支援の向上: 全メンバーの個別支援計画は作成出来ているため、次のステップへの支援も行っていく。例えば障害者合同面接会に向けての支援や当日の引率、清掃や他事業所での作業支援などオリンピック住吉から次の展開を想定して利用者支援を行う。また作業内容も利用者のモチベーション向上に繋がるものを積極的に取り入れ、全体的なレベルアップを目指していく。</p> <p>2. 新規メンバーの獲得と既存メンバーの出席率向上: 2020年2月現在定員20名に対し24名の登録となっている。登録者数は定員を上回っているものの、1日の平均利用者数は横ばいである。週に来る回数が決まっている、入院が長引いているなど理由は様々で、まだ向上の余地があるため支援に力を注ぐ。</p> <p>3. 法人内連携による作業強化: 2019年1月にオリンピック住吉東が開所したことを受け、さらに法人内での連携を強化していく。工程が多い作業などは分担して行うなど徒歩5分という立地を活かして連携していく。また高齢者施設での清掃作業、農作業なども引き続き連携し、メンバーの社会性向上に繋げていけるよう支援する。</p> <p>4. 人材確保と育成(研修): 職員確保と育成のため法人内外の研修に参加し、年間1人1万円予算計上する。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピア長峰	部門	グループホーム	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 入居者支援の向上 2. 地域のネットワーク構築 3. 体験部屋(ショートステイ)の設置 4. 人材確保と育成(研修)				
事業計画					
1. 入居者支援の向上:2017年10月1日(日)より社会福祉法人聖隷福祉事業団より事業継承し、2年半が経過した。2019年1月に5部屋満室となり、2019年11月には1部屋増室し、6部屋満室となっている。入居者1人ひとりの個別支援計画はもちろん、モニタリングをこまめに行い、共同生活援助を行っていく。オリンピアや他法人の各就労継続支援B型とも連携し、日中支援と夜間支援を相互に連携していく。					
2. 地域のネットワーク構築:前法人時代からの地域交流を引き続いて行い、グループホームオリンピア長峰がこの地域にあって良かったと思われる施設を目指す。具体的には長峰地域にある教会や行事に参加して入居者の方にも楽しんでいただきつつ、地域への発信を行っていく。					
3. 体験部屋(ショートステイ)の設置:現在満室のため体験利用の受け入れを停止している。現在も体験利用の問い合わせがある。これまで1部屋共同生活援助の体験利用として運用していたが短期入所(ショートステイ)として1部屋増設し、入居を検討している方への窓口とするべく設置を目指していく。					
4. 人材確保と育成(研修):職員確保と育成のため法人内外の研修に参加し、年間1人1万円予算計上する。					

社会福祉法人光朔会

## 事業計画

2020年度

施設	オリンピア住吉東	部門	生活支援	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 新規利用者の獲得 2. 利用者支援の向上 3. 法人内での支援体制の連携と強化 4. 地域・福祉事業所とのネットワークの構築				
事業計画					
1. 新規利用者の獲得 :2020年2月現在、定員20名に対して10名の登録となっている。体験者が随時、利用されており、区分の関係により生活介護を利用できない方へは区分申請の変更を促している。4月より新卒生が3名利用契約して通所予定。福祉関係各所へ向けたチラシの配布やセミナーを通じた広報活動により認知度を向上させており、問い合わせが増えてきたので、引き続き見学・体験を通じて利用契約に結び付けていきたい。					
2. 利用者支援の向上:事業所内の環境調整を行い、利用者が日々落ち着いて通所できる事業所を目指す。個別支援計画を職員間で共有し、職員全体の支援レベルの向上を図る。					
3. 法人内での支援体制の連携の強化:場所の近い住吉との情報交換と支援員の連携により、利用者数の向上と利用者の安定した通所に繋がるように協力していく。					
4. 地域・福祉事業所とのネットワークの構築:暮らし部会への参加など地域のネットワークを生かして認知度を広めてきたことにより、支援センターからの紹介も増えてきた。今後も地域の動向を把握する機会とする。兵庫県に限らず、他の生活介護事業所の情報を得ることでプログラムの充実を図っていく。					

社会福祉法人光朔会